

1 自己評価について

(1) 本年度の重点目標および設定の理由等

重点目標

- ① 学力の向上と高い専門性を育む教育を推進し、個々の生徒が進路実現できる力を育成する。
- ② 挨拶の励行，整理整頓，交通マナー，携帯マナーの意識向上など，基本的な生活習慣を確立させるとともに，生徒の自主性・主体性を育てる。
- ③ 部活動，資格試験，ものづくりを通して地域との連携を深めるとともに，積極的な情報公開に取り組む。

(2) 評価項目

- ①学習指導 ②基本的な生活習慣の確立 ③特別活動・キャリア教育

(3) 評価の観点，評価基準等

① 学習指導

- ・「朝の学習」の定着によって，授業に臨む姿勢が身に付いている。
- ・わかりやすい魅力ある授業が実践されている。

② 基本的な生活習慣の確立

- ・教室や身の回りの学習環境が整っており，基本的な生活習慣が身に付いている。
- ・躰教育の定着指導が実施され，交通マナーや携帯マナーが守られている。

③ 特別活動・キャリア教育

- ・地域産業に関心を持ち，部活動や委員会活動を通じて，地域と連携した活動に取り組んだ。
- ・進路実現に向けて，様々な資格取得を目指し，インターンシップや職場実習・高大連携にも積極的に参加した。

(4) 評価実施時期及び実施方法

表1 評価実施時期および実施方法（内容）

評価時期	実施方法（内容）
5月～10月	アンケートの設問作成（マークシート方式）
11月頃～	アンケートの実施（生徒，保護者，職員 同時配付）および集計
12月上旬	アンケートの結果検討
12月中旬	自己評価の実施および集計
1月上旬	自己評価の検討および問題点・改善策の洗い出し
1月下旬	実施する改善策の検討
1月下旬～	学校関係者評価（学校評議員会）の実施
2月中旬	改善策の実施
3月上旬	実施した改善策の評価

(5) 評価結果の公表時期及び公表の方法等

2月上旬，学校関係者評価委員会（学校評議員・PTA会長）において自己評価と問題点・改善策を公表し，助言を受ける。自己評価ならびに問題点・改善策は，年度末頃に発行するPTA新聞に公表する。ホームページ上でも公開し，PTA総会等でも適宜報告する。

(6) 評価結果

令和元(2019)年度 学校評価アンケートのまとめ(別紙)

集計結果を記号化し，各設問の回答「はい」と「どちらかと言えばはい」の合計の割合(%)を「A」は80%以上，「B」は60%以上，それ未満は「C」とした。

(7) 中間的な評価を実施し見直しを行ったこと

12月の職員会議で，アンケートの集計結果を公表した。1月の会議に向けて，集計結果に伴う「問題点並びにその改善案」の検討時期を設けた。

(8) 評価結果に基づく今後の改善方策等

令和元(2019)年度 学校評価および令和元(2019)年度 足利工業高等学校 学校関係者評価(別紙)校務分掌の各部・係を中心に，関係するそれぞれの課題とその対応策を継続して取り組み，改善につなげる。

2 学校関係者評価について

(1) 評価組織（評価者）

学校関係者評価委員（学校評議員，PTA会長）

(2) 評価実施時期及び実施方法

令和2(2020)年1月30日(木)学校関係者評価を実施

生徒・保護者・教員の各アンケート集計結果から，自己評価および学校評価の内容を公表し，それに関する助言・評価を受ける。

(3) 評価結果の公表時期及び公表の方法等

年度末に，学校関係者評価とそれに基づいた改善点を検討し，ホームページ上で公開する。
また，年度末に発行するPTA新聞にも掲載する。

(4) 評価結果

令和元(2019)年度 足利工業高等学校 学校関係者評価(別紙)

(5) 評価結果に基づく今後の改善方策等

令和元(2019)年度 足利工業高等学校 学校関係者評価(別紙)

3 学校の情報提供について（学校評価に係る取組を除く）

(1) 提供内容

- ① 学校行事・年間計画・月間計画等
- ② 教育活動成果の発信（資格取得・部活動大会報告等）
- ③ 進路情報
- ④ 教育活動内容の発信
- ⑤ 入学者選抜情報の提供

(2) 提供方法

- ① 生徒や保護者への配付資料に加え，ホームページを活用し，生徒・保護者に最新情報を広報に発信する。
- ② わたらせケーブルテレビ，両毛新聞，商工会議所ニュース等を活用して，学校近隣を中心に発信する。
- ③ 地域の回覧板等を利用した情報提供を行う。
- ④ 中学校訪問や校外施設を利用した広報活動の際，情報提供を行う。

令和元(2019)年度 学校評価アンケートのまとめ

数値は「はい」と「どちらかと言えばはい」の合計の割合(%)で、「A」は80%以上、「B」は60%以上、それ未満は「C」

質問事項ごとの評価

令和元(2019)年度 重点目標	〈質問事項〉		保護者	生徒	職員	保護者	生徒	職員	学校評価	関係者評価
(1)学力の向上と高い専門性を育む教育を推進し、個々の生徒が進路実現できる力を育成する。	1	授業に臨む姿勢		A	B		85.3	77.3	A	A
			A	A	B	85.6	69.7			
	2	わかりやすい授業		A	A		81.6	95.5		
			A	A	A	83.0	93.9			
	3	家庭学習	A	A	A	84.7	85.3	84.8		
A			A	A	89.2	84.3	80.3			
4	朝の学習		B	B		68.3	69.7			
		B	B	B	75.5	78.8				
5	専門科目の効果	A	A	A	97.4	94.8	92.4			
		A	A	A	96.8	96.7	100.0			
(2)挨拶の励行、整理整頓、交通マナー、携帯マナーの意識向上など、基本的な生活習慣を確立させるとともに、生徒の自主性・主体性を育てる。	6	生活習慣 規範意識・挨拶	A	A	A	92.5	89.3	93.9	B	B
			A	A	A	95.0	90.9	98.5		
	7	規範意識 身だしなみ	A	A	A	96.3	95.3	93.9		
			A	A	B	97.0	95.3	78.8		
	8	言葉遣い	A	A	B	93.3	93.4	72.7		
			A	A	B	93.7	96.3	72.7		
9	交通マナー	A	A	B	95.0	97.0	71.2			
		A	A	B	95.9	97.0	75.8			
10	携帯マナー	A	A	B	92.1	96.2	69.7			
			A	C		97.9	54.5			
(3)部活動、資格試験、ものづくりを通して地域と連携した活動に積極的に取り組む。	11	部活動の活性化	A	A	A	88.2	88.2	80.3	A	A
			A	A	A	88.6	91.4	83.3		
	12	資格試験の取組	A	A	A	83.9	86.9	95.5		
			A	A	A	87.9	86.7	90.9		
	13	資格補習の充実	A	A	A	91.0	92.5	95.5		
A			A	A	94.8	94.6	92.4			
14	地域連携 ボランティア活動	B	B	B	76.6	66.0	77.3			
		B	B	B	78.6	70.6	72.7			
15	HP情報発信	A	A	A	85.4	81.9	93.9			
		A	A	A	85.7	81.1	95.5			
その他	16	進路指導 進路の取組	A	A	A	81.2	82.6	83.3	A	A
			A	A	A	81.9	84.6	84.8		
	17	進路相談	A	A	A	91.4	90.0	95.5		
			A	A	A	92.6	92.0	100.0		
18	いじめへの対応	A	A	A	89.9	81.4	95.5			
		A	B	A	87.9	78.7	98.5			
19	満足度	A	A		97.0	84.8				
		A	A		98.0	87.9				

上段は今年度、下段は昨年度の評価

昨年比

-5%以下
-1.5%以下

10%以上
5%以上
1.5%以上

別紙

令和元(2019)年度 学校自己評価

栃木県立足利工業高等学校 全日制

教育目標

人間性豊かな工業人の育成

重点目標

- 1 学力の向上と高い専門性を育む教育を推進し、個々の生徒が進路実現できる力を育成する。
- 2 挨拶の励行、整理整頓、交通マナー、携帯マナーの意識向上など、基本的な生活習慣を確立させるとともに、生徒の自主性・主体性を育てる。
- 3 部活動、資格試験、ものづくりを通して地域との連携を深めるとともに、積極的な情報公開に取り組む。

質問事項

A…はい・どちらかと言えばはい の合計 80%以上, B…60%以上, C…それ未満

- 1 授業に臨む姿勢・・・保護者－/生徒A/職員B
生徒自身は積極的な姿勢であると自覚している一方で、毅然とした態度で関わる職員は、消極的な態度や後ろ向きな姿勢に目が届き、指導する上で強く印象に残り、厳しい評価になりやすい。
- 2 わかりやすい授業・・・保護者－/生徒A/職員A
全国工業高等学校長協会の事業「工業高校生の専門的職業人として必要な資質・能力の評価手法の実践研究」の指定を受け、現在も実践中である。各教科は、この影響が出たと思われる。
- 3 家庭学習・・・保護者A/生徒A/職員A
夏休みや冬休みなど長期休業期間を中心に、各教科から複数の課題が出題されている。定期試験前後も、各教科から試験範囲に関する宿題が出されている。
- 4 朝の学習・・・保護者－/生徒B/職員B
朝の学習は、始業前に落ち着いて授業に臨む目的で設置された。時期によって、学校行事等で朝の学習が実施されない場合もあり、年間の計画と進捗状況がかみ合わないことが原因とされる。
- 5 専門科目の効果・・・保護者A/生徒A/職員A
中学校訪問は参加生徒が、中学生対象に技術的な専門の説明をした。1日体験学習では、中学生や保護者向けに専門の授業で学んだ内容を生徒が発表した。その他、工場見学やインターンシップ、課題研究(高大連携・職場実習)の各内容が専門科目と関連したものになっている。
- 6 生活習慣・・・保護者A/生徒A/職員A
規則正しい生活習慣を確立できるように、登校時は複数の職員が昇降口付近であいさつの励行を実践し、生徒の動向を見守っている。著しく乱れのある生徒は、正副担任で連携し、場合によって学年主任や各科長・生徒指導部も加わる。
- 7 規範意識・身だしなみ・保護者A/生徒A/職員A
定期的に頭髪服装指導を実施し、生徒や保護者も理解を示し、校内規定の基準外生徒も最終的には、指導に従っている。

別紙

- 8 規範意識・言葉遣い・・・保護者A／生徒A／職員B
近年、生徒同士でも先輩・後輩の関係や親子関係も多様化しており、それぞれの立場で受け取り方が異なる。中学校までの言葉遣いが改善されない場合や些細なことで感情的になってしまうケースも一部で見られる。
- 9 交通マナー・・・・・・・・保護者A／生徒A／職員B
毎日、複数の職員が近隣の通学路で立哨指導を実施し、各月には遠方の通学路でも実施している。1学期の学校行事では、外部講師による交通安全指導を開催した。その中で、外部から交通マナーの苦情が時々あり、本校生と断定できないものでも職員にとっては強く印象に残る。
- 10 携帯マナー・・・・・・・・保護者A／生徒A／職員B
昨年度よりは、やや改善されたものの授業に集中せず誘惑に負けてしまう生徒が著しく目立ち、校内の規定を改めて見直し実行する形になった。
- 11 部活動の活性化・・・・・・・・保護者A／生徒A／職員A
部活動の統廃合問題に伴い、様々な制限が出ている中で、保護者の理解の上で、生徒の活躍が著しい。上位大会出場に向けた壮行会や報告会を実施し、全校で功績を称え、本校HPで公表した。
- 12 資格試験の取組・・・・・・・・保護者A／生徒A／職員A
各学年で習熟度のバラツキがあり、資格取得の合格率のみで評価することは難しい。本結果は、資格取得に向けた意欲とその指導を表したものである。
- 13 資格補習の充実・・・・・・・・保護者A／生徒A／職員A
各学科で様々な資格取得の学習計画を立案し、朝の学習や放課後に資格補習を実施している。所属の部活動と連携し、合格を目指して励んでいる生徒が多い。
- 14 地域連携・ボランティア活動・保護者B／生徒B／職員B
校内にボランティア推進委員会が設置してあるが、全体的に意識が低い。本委員会や生徒会役員をはじめ一部の生徒は、中学校や他校へ交流活動に参加している。一歩踏み込んだ形で、さらに多くの生徒が参加する選出手段を検討されたい。
- 15 地域連携・HP情報発信・保護者A／生徒A／職員A
今年度は、学校HPの更新を積極的に取り組み、数々の情報発信を毎日実行している。学校案内パンフレットも新規に作成し、新設学科のPRに利用した。
- 16 進路指導・進路の取組・保護者A／生徒A／職員A
1年次から各学年行事として計画的に組まれている。現職の企業の方や本校卒業生などに講話や体験談を依頼し、進路実現に向けた進路指導を実施している。
- 17 進路指導・進路相談・・・保護者A／生徒A／職員A
進路指導部と3学年を中心に、連携しており生徒それぞれをきめ細やかに対応している。
- 18 いじめへの対応・・・・・・・・保護者A／生徒A／職員A
定期的に、いじめアンケートを実施。その結果を受けて、いじめ対策委員会を開催。慎重に審議の上、解決に向けて望ましい対応を迅速に行った。スクールカウンセラーを複数配置し、教育相談体制を充実させた。

別紙

令和元(2019)年度 学校評価 (別紙 令和元(2019)年度 学校自己評価 参照)

栃木県立足利工業高等学校 全日制

◇重点目標に対する学校評価

- 1 学力の向上と高い専門性を育む教育を推進し、個々の生徒が進路実現できる力を育成する。・・・A
- 2 挨拶の励行、整理整頓、交通マナー、携帯マナーの意識向上など、基本的な生活習慣を確立させるとともに、生徒の自主性・主体性を育てる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・B
- 3 部活動、資格試験、ものづくりを通して地域との連携を深めるとともに、積極的な情報公開に取り組む。・・A
- 4 その他・・A

◇評価結果に基づく今後の改善方策等

- 1 生徒自身は積極的な姿勢を尊重し、学校(職員)側は毅然とした態度で関わりを続ける。
全国工業高等学校長協会の事業「工業高校生の専門的職業人として必要な資質・能力の評価手法の実践研究」の指定を受けながら生徒にも還元できるように教材研究等にも配慮する。
長期休業に限らず定期試験前後も、可能な限り各教科からの課題を出題する。
学校行事と朝の学習が、年間の計画と進捗状況が合致するように調整し、始業前に落ち着いて授業に臨むように努める。
中学校訪問の際や1日体験学習をはじめ、中学生や保護者向けに専門の授業で学んだ成果を生徒が発表する機会を今後も設ける。
- 2 規則正しい生活習慣の確立に向けて、登校時の指導や複数の職員で対応する体制を継続する。
定期的に頭髪服装指導を実施し、その都度、生徒や保護者に理解を求める。
近年の生徒間や親子関係の多様化に、柔軟に対応する生徒指導を心掛ける。
通学路の立哨指導を継続し、外部講師と連携して、交通安全指導を続ける。
- 3 部活動の統廃合問題に伴い、生徒・保護者に理解を求める。
資格取得の合格率のみで評価せず資格取得に向けた意欲とその指導を重要視する。
各学科で様々な資格取得の学習計画を立案し、朝の学習や放課後の資格補習を継続する。
一部の生徒の参加を一步踏み込んだ形で、さらに多くの生徒が参加するような形を検討する。
- 4 各学年行事として計画的に外部講師や本校卒業生などに講話等を依頼し、進路実現に向けた進路指導を実施する。
進路指導部と3学年を中心に、円滑な連携を継続する。
定期的に、いじめアンケート・いじめ対策委員会を実施する。その結果を受けて、解決に向けた望ましい対応を迅速に行う。また、スクールカウンセラーを効果的に生かす。

別紙

令和元(2019)年度 足利工業高等学校 学校関係者評価

◇評価結果

1月開催の第2回学校評議員会終了後、学校関係者評価を実施した。学校運営に関する様々な意見交換を行い、活動報告について客観的な視点でとらえることができた。出席者からの主な意見を以下に示す。

- 1 「織姫公民館が主催するジュニア探検教室でのペットボトルロケットづくり」事業の実施を高く評価する。地域と連携した効果的な事業を、次年度も継続して欲しい。
- 2 第30回工業関係高等学校生徒研究発表大会「足利中央特別支援学校との協働による商品開発」については、大変優良な内容である。
- 3 生徒アンケートの集計結果から、学校生活が楽しいと判断でき、今年度は高く評価できる。
- 4 生徒研究発表の内容は、とても効果的なものであり、来年度以降も継続して欲しい。
- 5 とちぎ高校生課題研究発表会・グローバル人材育成講演会
「ドイツ姉妹校との交流活動～ドイツの先進技術と活躍する日本企業～」については、体験的で生徒にとって望ましい内容である。また、工業高校としての特長が出ている。
- 6 ボランティア活動をより活動的に伸ばすために、生徒全体のニーズを調査してはどうか。その上で、学校として何ができるのかを検討してみては。あえて集計結果Aを目指す必要があるのか。
- 7 産業デザイン科生徒用スケッチブックの大きさについて指摘。家庭に持ち帰る際、移動手段において安全面の検討が求められた。

◇評価結果に基づく今後の改善方策等

<今後取り組む改善方策>

- ・わかりやすい授業

全国工業高等学校長協会の事業

「工業高校生の専門的職業人として必要な資質・能力の評価手法の実践研究」を実践中であり、次年度も継続して各教科の評価手法を研究し、生徒に還元できる内容につなげていく。

- ・携帯マナー

生徒が授業に集中して臨めるように、全体の状況を見極めながら、校内規定を改めて見直すとともに、マナー向上のための指導の充実をはかる。

- ・地域連携・ボランティア活動

ボランティア推進委員会や生徒会役員をはじめ一部の生徒参加にならないように、広報をしっかりと活動し、多くの生徒参加につなげる。

- ・地域連携・HP情報発信

学校HPの更新を積極的に取り組み、数々の情報発信を継続して実行する。